

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2024\_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都府南丹警察署	階数	地上4F
建設地	京都府南丹市園部町上本町南2番2	構造	S造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	188 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2030年12月 予定	評価の実施日	2025年12月1日
敷地面積	3,190 m <sup>2</sup>	作成者	(株)内藤建築事務所
建築面積	1,183 m <sup>2</sup>	確認日	2026年1月5日
延床面積	3,618 m <sup>2</sup>	確認者	京都府警察本部長 吉越清人



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1</p>		

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1 のスコア = 3.0	Q2 のスコア = 3.4	Q3 のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1 のスコア = 3.4	LR2 のスコア = 3.0	LR3 のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>現南丹警察署を継続運用しながら同一敷地に新庁舎を整備することで、治安機能の強化や利便性の向上を図るとともに、大規模な自然災害等の突発事案が発生した際には、平常の警察施設の機能を維持しながら、機能転換に優れた庁舎として力を発揮できる、府民の安全・安心を守る拠点とする。</p>	<p><b>その他</b></p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>LowE複層ガラス、全面的なF☆☆☆☆建材の使用により、室内環境の向上に配慮し、来庁者エリアの積極的京都府内産木材の活用により温かみのある内部空間としている。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>建物の安全性を確保しつつ、天井高さの確保(階高3.65~3.8m)等により、建築物の機能性を高めている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>敷地境界沿いには植栽帯を設け、歩行者に配慮した計画としている。また、周辺の街並みや風土に寄り添った外装材の選択を行っている。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>屋根・外壁の高断熱化、LowEガラスやLED照明等高効率な設備機器を採用し、BEI値0.60を達成している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水に配慮し、省資源に取り組むとともに、執務スペースなどのOAフロアの採用により、将来の部材再利用可能性向上にも配慮している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>駐車場・駐輪場について、適当な台数を見込み、警察関係車両は一般車両と別の出入口を設けることで、交通負荷抑制に寄与する計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。  
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される